

経営比較分析表（平成29年度決算）

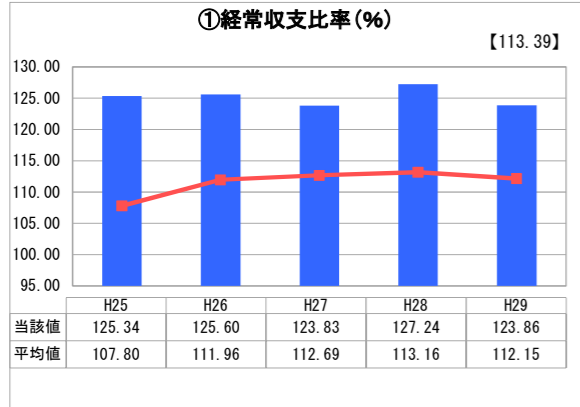
山形県 米沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	87.34	100.27	3,445	

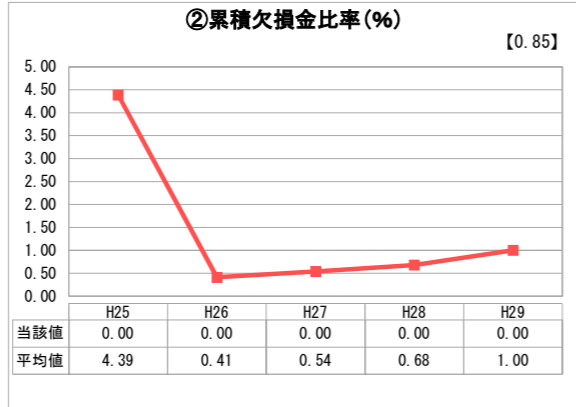
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
81,847	548.51	149.22
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
81,345	116.45	698.54

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

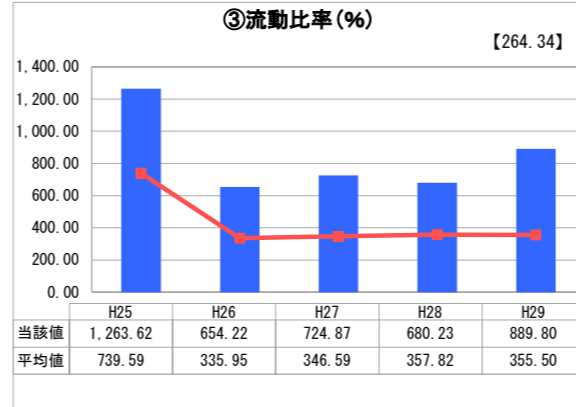
1. 経営の健全性・効率性



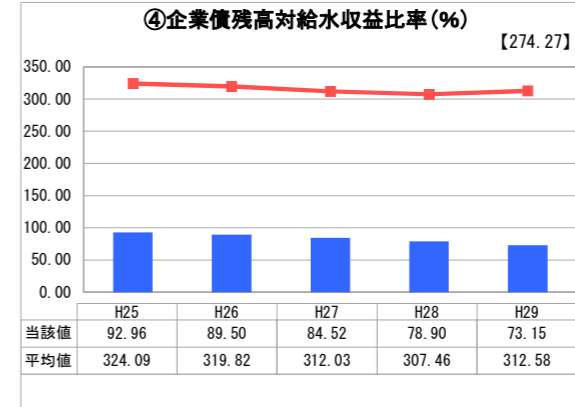
「経常損益」



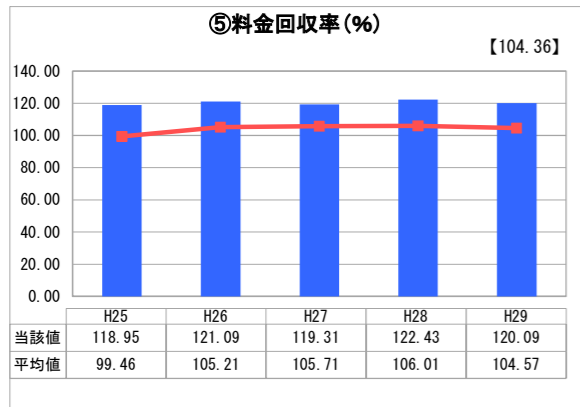
「累積欠損」



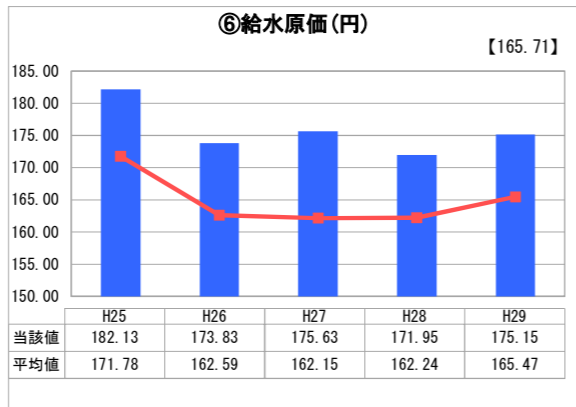
「支払能力」



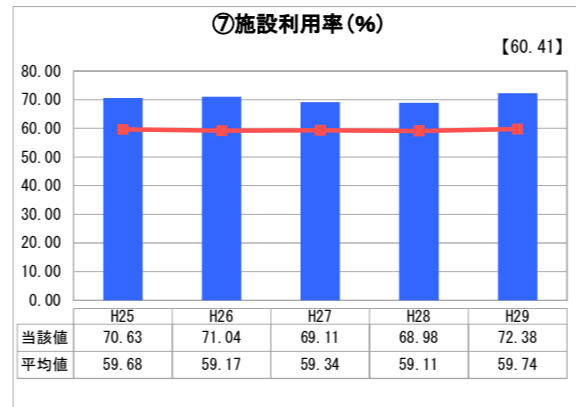
「債務残高」



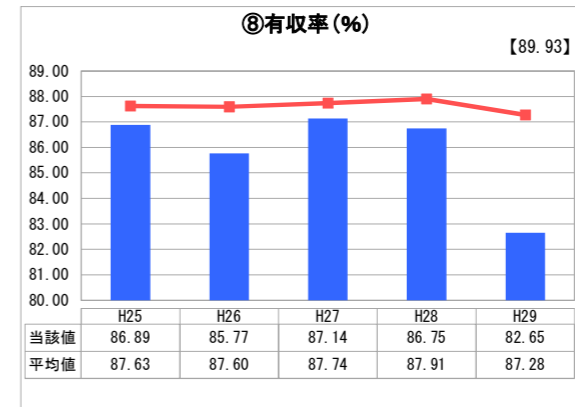
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

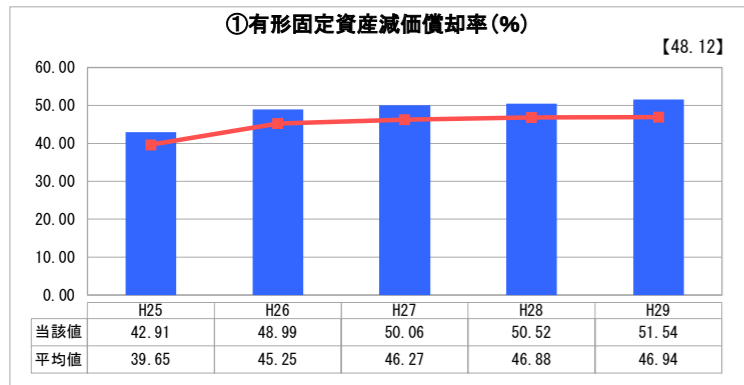


「施設の効率性」

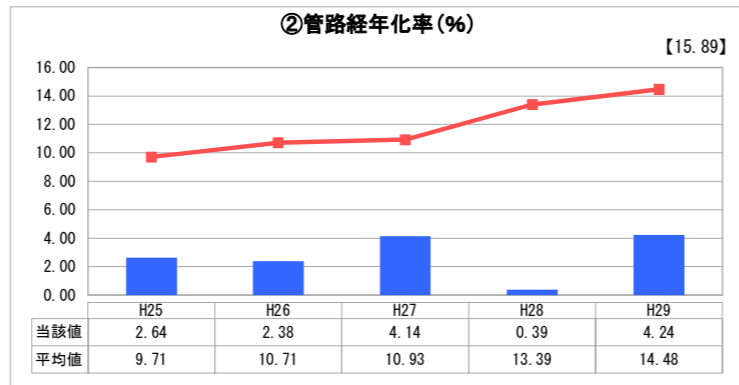


「供給した配水量の効率性」

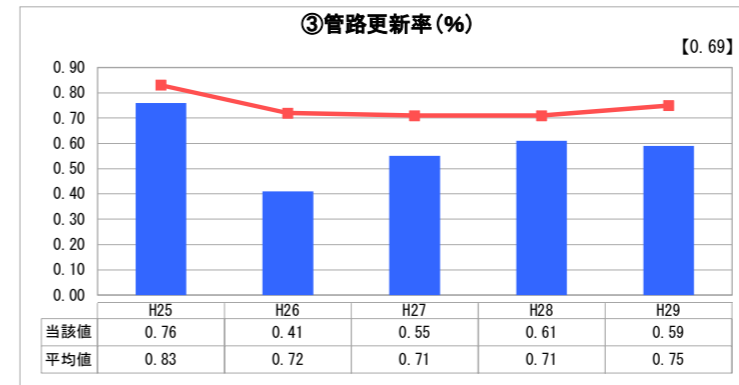
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、⑤ 料金回収率は、100%を超え、かつ類似団体と比較し高くなっており、費用が水道料金等の収益によって賄われている状況であり、経営の健全性が確保できているといえる。
 ③ 流動比率も類似団体と比較して高い水準を保っており、安定した経営ができています。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体と比較し低く、現在のところ企業債に頼らない健全な経営状態であるといえるが、今後も効率的な経営を継続し、将来の更新投資に充てる財源の確保に努める。
 ⑥ 給水原価は、配水管100m当たりの給水人口が少なく配水に係るコストが高いため、類似団体より高い状況となっている。
 ⑦ 施設利用率は類似団体と比較し高いものの、⑧ 有収率は低く、施設の稼働状況が有効に収益に反映されているとは言えず、計画的な管路の更新や、定期的な漏水調査等を行うことにより、有収率の向上を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値とほぼ同じ水準にあるが、毎年上昇しており、老朽化した施設・設備を計画的に更新していく必要がある。
 ② 管路経年率は低い水準にあるものの、③ 管路更新率が類似団体と比較して低くなっている。近い将来、第7次拡張事業期(S56～S60)に急速に整備された管路が一斉に老朽化し、管路経年率が大幅に上昇することが予想されるため、アセットマネジメントの活用等により、計画的かつ効率的な施設・設備の更新を行っていく必要がある。

全体総括

経常収支比率、流動比率、料金回収率等が、類似団体と比較して高いことから、現状では経営の健全性は保たれているといえる。
 しかし、今後は人口減少等による給水収益の減少が見込まれるため、資産の適切な維持管理を行うとともに、施設の統廃合やダウンサイジングを含めた更新を行っていく必要がある。
 また、有収率の向上を図るため、老朽管更新工事や漏水調査を積極的に行っていく。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。